

エッセイ | ESSAY

花街道プロジェクト

～人もまちも経済も健康で平和な世界が持続できますように～

Introductory of the Flowery Way Project to Toyama

今井壽子 (NPO 法人 [花街道薬膳のまちを夢みる会](#))

Toshiko IMAI NPO Representative: the dreamers' association of the city of flowery way and medicinal cooking

I 花の薬都づくり

穏やかな 11 月中旬の日曜日、富山国際会議場メインホールで開催された花街道プロジェクト 2013「富山県民総ぐるみで花の薬都をつくろう」。人もまちも経済も美しく健康にしようというこのセミナーは 650 名、氷見市・南砺市・朝日町など遠くからの参集も得て、成功裡に終了致しました。これは、NPO 法人花街道薬膳のまちを夢みる会が主催、富山県と NPO 法人富山のくすしと共催したものです。

受付では富山県立中央農業高校生が、自分達で育てたビオラを参加者全員に手渡し、美しい薬草芍薬の球根や花の種も配布、セミナーでは健康になる秘訣として腸内フローラ（お腹の中のお花畑）やくすりの富山らしい薬草・薬膳の講義に傾き、植物の力を生かす薬膳ランチを賞味した会場は、「ささやかでも自分も社会貢献出来るんですね」と、明るい笑顔や笑い声に、心が繋がって響き合う豊かなひと時が流れました。小さな点の活動は、線へ面へと広がって初めて意義を持ち始めます。一人一人がすぐにでも実践しようという喜びが溢れたこの日、市民自らの行動こそが強い絆の源泉であり花街道がずっとずっと繋がって地球を一周り、世代を越えて美しく平和な地球が続きますようにと夢みる第一歩です。

6 年前、たった一人の小さな想いから始まった運動は波紋のように広がって、大きなうねりにな

り、そうして迎えたセミナー当日は「花の薬都づくり」を力強く踏み出した記念すべき日となりました。

近年、代替医療の一つとして園芸療法が注目されています。植物の世話を通じて、心身のバランスを整え、病気治療・病気予防の大きな効果を出しているそうです。文部科学省のエビデンス「花がもたらす心身への好影響」によれば、花の香りや土との触れ合いにより五感が刺激されて脳を活性化、認知症を改善、更に骨密度の上昇・身体機能の向上がみられ、幼児から高齢者に至るまで効果は顕著だとされています。花は心を穏やかにし、疲労感や孤独感を軽減、ストレスを解消してくれるのです。観るだけで人の心を癒し、声をかけると微笑んでくれます。人も花も同じです。美しい花は人を元気にし、元気な人が美しいまちをつくる、こんな単純な循環が大きな社会貢献として結実すると思うのです。自然に思いやりの心やモチベーションが上がり、個人の潜在能力や自然治癒力を高めますから、成人はもとより、将来を期待される子供達の創造力・社会性が増し、澁刺とした人材育成にも繋がると期待できます。これが私達「花街道薬膳のまちを夢みる会」のめざす、花づくりを通じたひとづくりのイメージです。

「一人一人の力は小さいけれど、みんなでやれば花街道」。一燈照隅万灯照国、ほのかでも自ら光り続ける有意義な生き方を、多くの人々と分かち合える幸せをしみじみと噛みしめています。

ちょうど「夢見る会」の設立から5年になり、活動はひとつの節目を迎えたところです。私のこれまでの経験がどなたかのお役に立つことを願いつつ、この場をお借りして、私が取り組んできた活動を振り返るとともに、活動を始めるに至った経緯や今後の抱負をまとめ、皆様にご紹介したいと思います。

Ⅱ サロンづくりの始まり

今から振り返ること26年前、富山のオフィス街電気ビル向かいに、そよ風のような、春風のようなという意味で名付けた小さな喫茶店『ゼフィール』を開店した事が、街と直接関わるようになった最初のきっかけかも知れません（図1）。

キャリアも資金も無い、珈琲が大好きというだけの主婦の社会参加でした。「いらっしやいませ」を云うことしか知らないゼロからのスタートでした。元日を除く1年364日、睡眠時間3時間程でこまねずみのように働いた日々、一生懸命働いても毎日毎日失敗の連続でした。心を込めて作った珈琲や食事をお客様に試食して頂いたりしながら、メニューをだんだん追加していきました。自分がお客様だったらどんな事をして欲しいか、どんな事が嫌か、いつも考えました。本や新聞、観葉植物を幾鉢も置き、トイレ掃除は1時間ごと、暇さえあれば店中ピカピカに掃除をして回ります。喫茶店経営は回転率次第なのですが、私は敢えて、ほっとする、のんびりする、楽しくお喋り出来る空間作りを心掛けました。社員各々のきらっと輝く個性を認めて和顔愛語で接し、自主的に考え行動するよう導くことに努めました。そうするうちに社員は自ずと「ようこそ」の気持ちをもって働いてくれるようになり、お客様からも褒められリピーターの多い人気店になっていきました。

ご注文の品は少しでも早くお出しした上で、ゆっくり寛げるよう気配りをしました。私自身も絵が好きでしたから、壁面を改装、セミプロの絵画



図1 花街道プロジェクトの現在の活動範囲、および次年度の展開予定域

の発表の場とし、毎月1回入替え。これで絵を鑑賞するお客様も増えました。その後も26年間、毎月新しい絵が飾られています。今ではもう珍しくないロビー展ですが、その当時は画期的と驚かれ、近隣のホテルや銀行、NHKなどでもロビーをギャラリーとして開放するようになりました。このときの経験は、他愛もないように見える事柄でも、価値を認められれば自然に広がっていくものだに私に教えてくれたように思っています。

若い頃の職場、銀行で身につけた信用を大切にしながら、瑣末な努力を積み重ね、PDCAを繰り返す。そうするうちに磁場が出来、上向きのスパイラルが生じていきました。何にも出来なかった主婦の店がいつしか軌道に乗り、当時新築していた企業や大きなレストラン5軒から、店をやって欲しいと何度もお誘いを受けるほど信頼を寄せら

れるようになっていました。喫茶店経営で学んだ貴重な体験は、今でも私の経営理念の基になっています。経営は家庭も店も、大・中・小企業も、政治の世界さえ同様と見聞したのでした。

バブルの時代、バブル崩壊の時代、リーマンショックと世界経済は激動しましたが、ゼフィールの売上げがずっと緩やかに右肩上がりだったのは、愚直な努力を続けたからだと思います。私の場合は、この立地条件だったから何とか頑張れたのであり、大家さんは勿論お客様やスタッフ・触れ合った方々の陰日向の無いお力添えが大きな要因だったと今でも深く感謝しています。

喫茶店経営はなんとか軌道に乗ったものの、開店当初の目的、子供の頃、母が教えてくれた貧者の一灯も灯せず、父に諭された「これからの女性は政治に関心を持つように」という事も出来ないまま忸怩たる思いをしていたのが、私のサロンづくりの始まりでした。

Ⅲ 駅前居酒屋通り創出へ

喫茶店を始めて10年経った頃のことです。あるお客様から「富山は今後、ストロー現象で衰退してしまうだろう」とお聞きしました。その頃、富山県が北陸新幹線の誘致に力を入れていたのです。新幹線が来れば東京から大勢来富されて賑やかになると思っていた田舎者の私は大きなショックを受けました。生まれ育った街が大変なことになりそう！困った、どうしよう…。丁度その頃、旅先で魚を一口食べた瞬間、立山連邦と富山湾がありありと脳裏に浮かびました。外へ出てみて初めて分かったふるさとの誇りでした。寂れてしまった富山駅前を、日本の中心として繁盛する、おいしい居酒屋通りに出来るのでないだろうか？と考えます。そしてこれからは、仕事が即社会貢献になる取組みをしていこう、そう決心し、一市民の視点で街を観察、ビジネスの手法で問題解決に当たるべく、一人で無言実行、一石二鳥のビル経営を

始めました。中古ビル再生(リデュース・リペア)、市街地空洞化阻止、都市美化、地域活性化です。我が街を想う熱意と10年間の地道な努力が認められ、普通なら難しい融資を受け、駅前に小さな6階建てビルを購入はできたものの、シャッター通りの空っぽビルにテナントが入るわけはありません。最初はギャラリー、レストラン、カルチャールーム、囲碁将棋サロンを自社経営、テナントは2店舗のみとして全館満室のスタートを切りました。その後、真向いと後方に2棟出店、賑やかな処に人は集まり、店が増えるとどの店も売上げが伸びたと喜ばれました。真似をしてビルを買ったよと嬉しそうに報告してくれる人も。次第に点は線に面になり、駅前居酒屋通りは15年の内に賑やかさを取り戻していきました。もちろん、ここに落ち着くまでの苦労は人知れず筆舌に尽くし難く、修繕費の大きさ、テナントの入れ替り、自社経営のまずさで体重は30kgを切るほどに痩せました。その危機を乗り切れたのは家族の強い絆と、信用して下さる方達の温情であり、自助努力というよりも、多くの方々からのご助力とご支援のたまものでした。

駅前市電通りはいつの間にか表通りと言われるようになり、若者は「昔から賑やかだと思っていた」と真っ暗だった頃を知ると驚きます。でも、昼は相変わらず閑散としたままでした。街って人が住まなきゃ元気にならないと気付き、桜町の小さなビジネスホテルを購入、これを飲食店とワンルームマンションに増改築しました。以来満室近い入居率は、時代の求めるものが何かの証明だったのかも知れません。この物件は丁度まちなかで居住推進を始めようという富山市のパンフレットに記載されることになります。行政と協働する時代の到来を感じたのも、今にして思えばこのときでした。

自分が生まれ育った旧市街、今はコンパクトシティに重なる街は、放っておくと廃れてしまう。少しでも活性化の一助になりたいと始めた内幸ビ

ルは、信用を大切に、時流を俯瞰的に見てきた事が実を結び、「テナントになりたい」「空室が無ければその周辺に出店したい」との申入れも頂くようになりました。忘己利他の信念で働いていると、却って恩恵を受けるものと実感しました。

IV 花街道プロジェクトへ

しかし、市街地空洞化・少子高齢化・医療費増大・農業問題・経済低迷などの世の閉塞状況を前に、私一人の力はあまりに小さく、ストロー現象の心配も解決されないままの日々が過ぎていきました。メルシーモンド（全世界からありがとうと云って貰えるように）を考えれば考えるほど、無力な自分に逡巡としてしまう。しかしそれを十分悟った時、トゥルモンド（一人でもできることみんなでやろう）に辿り着いたのです。コミュニティが薄れていく個の時代、人が輝き繋がり響き合う明るい街づくりこそ必要。そう考えたとき脳裏に浮かんだのが、花いっぱい富山県、日本、そして健康長寿で平和な世界でした。「お花一鉢なら私も育てられる、みんなで一鉢ずつ育てれば花街道ができる」。春の香りいっぱいのそよ風が、花街道をどこまでも心持よく吹き抜けていくイメージが脳裏に浮かびました。先ず城下町を花で彩ることから始めよう！

昔ぶり街道として賑わい、無病地蔵尊も花乃千里塚も昔ものがたりを秘めている歴史街道、城下町千石町通り。『薬膳通り、歩いて楽しむ花街道』スタート地点はここからと考えました（図1）。

一番大切なのは何の為にみんなが協力しなければならぬのかの理解を共有することでした。公の道路ですから先ずは行政からです。施策を生かし、職員になったつもりで真摯にお話をし許可を頂く一方、町内会長にもこんな活動を始めたいと丁寧に説明して回り、富山市との協働作業が始まりました。知事との対話にも参加、「夢をみるようないいお話ですね、頑張ってみて下さい」

と背中を押していただき、元気をもらいました。起業未来塾でみっちり6ヶ月学び、薬用植物センターで教を乞い、富山大学生薬漢方講座も受講、夢に向かって情報収集です。

自分の判断で黙々と取り組めば良かった喫茶店やビル経営とは違い、一鉢の花づくりは一人一人の心に呼びかけ、共感を得なければ一歩も先へは進みません。清水の舞台から飛び降りるような大きな勇気が必要でした。たった一人で通り沿いのお店を一軒一軒回って「ぶり街道を花街道にしましょう」、「好きなお花を一鉢育てませんか」と呼びかけます。自らの手で自分の街を美しく元気にしたいと願う、目の前の相手の心により添うように。初めのうちは怪しい女だから云うこと聞くなと噂が流れたり追い返されたり。一軒ずつ散水栓をつけて水道料も全て払うのかと詰め寄られたことも。私はその都度、幾度となく落ち込んでしまうのでした。それでも「悪い人じゃない、心配しなくていいよ」と暖かく応援してくださる方々に支えられ、少しずつ理解していただけるようになりました。幸い、すぐにマスコミの方々から取材をしていただけるようになり、程なく有志の会60人程が集まって魅力ある街づくりについての意見交換会を開催することもできました。こうして1mの鉢が100鉢並んだ最初の花街道が生まれたのです。こもりっきりだった一人暮らしのお婆さんも「花が咲いているっていいね」と井戸端会議が楽しそうです。新しく造った街なかサロンには若者たちも集まり始めました。

2年目、富山駅から丸の内まで1km程、街路樹の植樹樹に薬草の種を撒きました（図1）。可憐なマリーゴールドと黄花コスモスは、7月から12月まで咲き続ける薬草です。6月上旬の早朝7時半、県庁前噴水公園に町内会の方達、知人など100人程集まって一齐に作業、草茫々の荒れた通りに一輪の花が咲き始めた時は、感動したという電話やお話を沢山聞きました。私自身まるで魔法使いがやってきて杖を一振り、一瞬で花街道を創ってく



写真 1 有志の皆さまによる植栽活動のようす（左）。翌年には美しい花が咲きました（右）。筆者撮影。

れたのかと目を見張りました。富山市が設置・管理しているハンギングバスケットとの相乗効果も大きく、市の協働事業助成金の推薦も受けました。

城址公園の 5,000 球のチューリップやムスカリ・水仙の球根植え込み作業は、富山大手町ロータリークラブの社会奉仕活動として毎年続けることになり、あおば幼稚園児や富山中小企業家同友会、富山市、そして一般市民の方達と参加者も増えてきました（写真 1）。その時参加してくれた元気な男の子の「おーい、みんなで協力してやろうぜ」の声は、私にはひととき印象的でした。この子供達が、その父母やその祖父母と共に豊かな情緒や達成感を味わい、明日の活力ある富山を生み出す力を育てて欲しい。更に歴史や資源について学び、県外でも国際社会でも体験を通じた故郷の誇りを語れる若者に成長して欲しい。自助・互助・公助の協働を大切にしながら、お互い認め合い・尊敬し合い・安心して暮らせる街を子孫に繋いでいきたいと願わずにはおれませんでした。

富山駅構内でもチーム富山の若者達の自発的なおもてなしの心から植栽活動が始まりました。花苗植込み作業に従事している方達の喜びの表情、きびきびした動作、連携分担の見事さには、清々しさを覚えました。更に真夏の朝夕 2 回、ジョウロでの水やり。頭が下がります。ここは富山商工会議所や富山市と協働で管理している 70 鉢の花達が、訪れる人々を『ようこそ薬都へ』とお迎え

し、道案内をしながらその目を楽しませています。

3 年目には、花街道は新しくひまわり通りへも延びていきました。頼もしい若い警察官達も参加され「自分が種を撒いた場所が気になって時々見に行くよ」という嬉しい話題に会話が弾みます。4 月には NPO 法人を設立、信頼される組織として花街道プロジェクト実践にあたれるようになりました。

4 年目、花の種蒔き・追撒き・除草・灌水・枯草撤去など、天候に左右されながらもだんだん要領を得、活動は充実してきました。富山やくぜん倶楽部を発足させることもでき、150 人の会員が美しく健康になる為に、美味しい薬膳を食べたり学んだりしています。

地道な実践活動は共感を呼び、5 年目からは、冒頭にもご紹介した県民総ぐるみ運動へも一歩を踏み出しました。また富山の商店街の中心西町でもプランター設置を推進、富山駅前の薬草薬木の充実や、県庁前公園の大木の剪定などを提言しています。

このように一人一鉢の花を育て、どこへ行っても四季折々咲く花に癒される街を創っていききたいと、私は考えています。薬草は日頃親しんでいる花の中から、美しく育て易い広がり易いものを選び出し、新幹線開通までに爽やかな薬草の香りに感動される薬都を創り出したいものと願っています。

V 人もまちも経済も健康長寿に

活動は今年で6年目に入ります。私どもは現在、少しずつ広がって来た花街道の拠点として、憩いのサロンを創ろうと模索しています。立山の清らかな水を汲み上げ、せせらぎを楽しむ小川をつくり、ほたるを育て、小さな魚も泳がせよう。地熱や小水力発電など自然エネルギーを活かした施設。うまいもんの街として地域の人々に親しまれ、観光客がまた来富したくなるような、大きなサロンづくりです。

夢を見るような、不可能を可能にするような難題ですが、富山の地域活性化には必要不可欠と考えています。街なかで1時間、2〜3時間過ごしたい方々に、「うまいもんなら千石町へ」と胸を張って云えるような町興しです。もう「富山ちゃん〜

んもないちゃ。隣の県へ行かれ」と云わなくてもすむようにしなければいけないのです。街歩きを楽しむ商店街、どうしたらそれが出来るのか。これまでの経営者としての経験を生かし、仮説と検証を繰り返していけば、必ずやより良い結果が得られるものと信じています。世界の潮流はめまぐるしく変化していきますが、一寸の光陰軽んずべからず、温故知新で問題解決にあたっていきたいものです。

2013年10月9日のエイジレス社会づくりフォーラムの講師から、世界中どこでも「健康長寿なのは3,000m級の山々のふもと、花いっぱい町ばかり」と教わりました。立山連邦と食材の豊庫富山湾の恵みを楽しむ、くすりの町富山こそ健康長寿日本一であるべきと念じながら、みんなと一緒に花を育てていけたらこの上ない幸せです。